

地域で開催する認知症カフェ「さんもくカフェ」の役割

社会福祉法人 サンライフ（愛知県）

住 所 (法人本部) 愛知県名古屋市東区葵 3-25-23

TEL (法人本部) 052-856-3311

URL <http://www.e-sunlife.or.jp>

経営理念

- ・地域とともに少子高齢社会を考え、安心して未来ある街づくりに貢献します。
- ・子どもの無限の可能性を引き出し個々のもつ力をはぐくみ、地域で育てる環境を作ります。
- ・子どもの優しい心、豊かな心、強い心を育てます。
- ・高齢者がもてる力を発揮して、自信と幸福を感じられる生活を支援します。
- ・高齢者の尊厳と自己決定を尊重し、一人一人のライフスタイルを支援します。
- ・職員がプロフェッショナルとして喜びと誇りをもち、自ら改革する力をもてるよう育成します。
- ・法律その他基準に従って、常に組織・運営を見直します。
- ・地域社会の変化と改革の先駆者となります。
- ・社会福祉制度のセーフティネットとしての役割を果たします。
ミッション「少子高齢社会をトータルサポートする」

事業内容及び定員

特別養護老人ホーム（20名）1か所、（30名）2か所、（80名）4か所、（90名）1か所、
（100名）2か所
介護老人保健施設（100名）1か所、（158名）1か所
ケアハウス（50名）1か所、（特定29名）1か所
養護老人ホーム（40名）1か所、（50名）1か所
認知症グループホーム（9名）3か所、（18名）1か所
サービス付き高齢者向け住宅（22戸）1か所、（24戸）1か所
高齢者向け優良賃貸住宅（43戸）1か所、（52戸）1か所
有料老人ホーム（住宅型37戸）1か所、（介護付51名）1か所
小規模多機能型居宅介護（29名）2か所
ショートステイ（10名）3ヶ所、（18名）3ヶ所、（20名）2か所
大型デイサービス（110名）1か所、（120名）1か所
デイサービス（10名）2か所、（15名）1か所、（35名）1か所、（42名）1か所、
（50名）1か所、（60名）1か所
デイケア（30名）1か所、（70名）1か所
生活支援短期通所事業（2名）1か所、生活支援通所事業（6名）1か所
訪問リハビリ 2か所、訪問介護 1か所、居宅介護支援センター 6か所、
地域包括支援センター 2か所、一般賃貸住宅（63戸）1か所
認可保育園（66名）1か所、（90名）1か所、（120名）1か所
学童保育所（58名）1か所

収 入 (法人全体) 平成26年度決算	① 社会福祉事業	5,230,966,527 円
	② 公益事業	2,488,550,737 円
	③ 収益事業	103,290,769 円
	合計	7,822,808,033 円

職 員 数
(法人全体) 1,247 名 (非常勤含む)

- 当 面 する
経 営 課 題
- 1 介護サービスの質の向上
 - 2 保育・子育て支援サービスの向上
 - 3 社会貢献事業の推進
 - 4 経営意識の徹底
 - 5 労務管理・職員教育の徹底

取り組みに
着手した
理由、背景

現在、「85歳以上の約4人に1人は認知症」といわれる時代であり、近年は「認知症」に関する情報がメディア等で紹介されることも多く、広く一般の方々にも「認知症」という言葉が浸透しつつある。ただ、中には「テレビの中の話」「紙面での情報」という部分もあり、「認知症」について身近に感じることが少ない方もいるのではないかと。今、日本は超高齢社会で、私たちの地域の中では認知症の症状を持っている方や認知症の方を介護されているご家族が身近に暮らしておられるのが現状である。

これまで地域からは認知症の独居高齢者を心配する声を聞いたり、介護疲れから心身ともに疲弊してしまわれ、誰にも相談できずに一人で悩みを抱えておられる介護者をたくさん見てきた。それらの経験から、専門職がゆっくりと介護者の相談を聞いたり、認知症の方(※以下、ご本人)とそのご家族がくつろげる時間をサポートしたりすることで、介護者の気持ちを軽くするお手伝いになるのではないかと考え、認知症カフェの取り組みに着手しはじめた。また、認知症ケアには「地域での支えあい」も欠かせないため、地域の方へも認知症に関する理解を深められる機会として、情報を発信していくこととした。

- 取り組みの
現 時 点
で の 効 果
- ・悩みを抱えた介護者からは、「気軽に相談できる場所があってよかった」との声を頂いた。
 - ・認知症に関する相談場所や介護者の集まり等の情報を伝えることができている。
 - ・介護経験者などが現介護者の悩み事やご本人の話に耳を傾けてくださるため、「心を軽くする場所」としての役割も担っていると感じる。
 - ・新たな支援方法として、ご本人とご家族が「ボランティア活動」を開始される。ご本人が長年得意とされていたことを施設の「ボランティア」として取り入れ、その活動を職員が支援している。一緒に活動に入られているご家族からは「ボランティアに入ることによって会話を楽しむ時間が増えた」との声を聞いている。
 - ・現在はリピーターとなった参加者もおおり、顔なじみの参加者に会える場所としても利用していただいている。

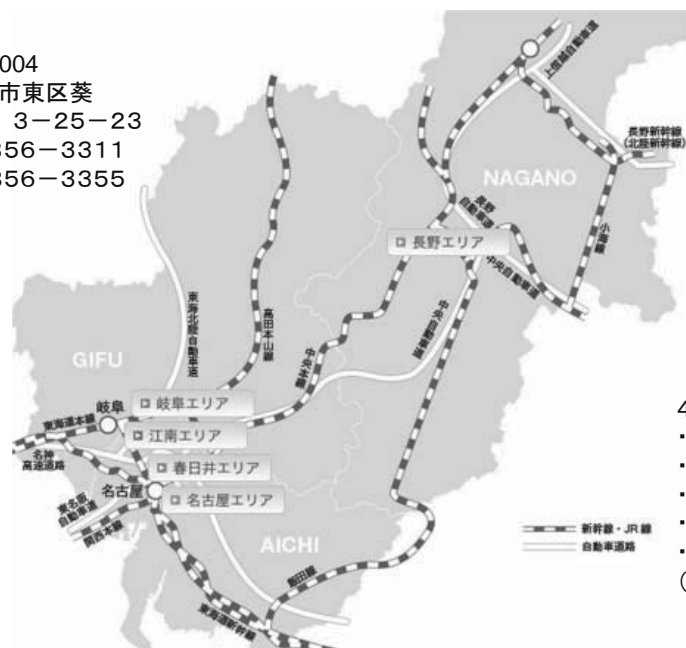
地域で開催する認知症カフェ ～「さんもくカフェ」の役割～



社会福祉法人サンライフ
江南エリア

社会福祉法人サンライフ

法人本部
住所：〒461-0004
愛知県名古屋市東区葵
3-25-23
電話：052-856-3311
FAX：052-856-3355



4エリアにて構成
・名古屋エリア
・江南エリア
・春日井エリア
・岐阜エリア
・長野エリア
(姉妹法人サン・ビジョン含む)



江南エリア



サンライフ江南

・特別養護老人ホーム ・ショートステイホーム

フラワーコート江南

・介護老人保健施設 ・ショートケアセンター
 ・デイケアセンター ・訪問リハビリテーション
 ・利用申し込みセンター
 ・ホームヘルパーステーション
 ・居宅介護支援事業所
 ・地域包括支援センター

ジョイフル江南

・特別養護老人ホーム ・ケアハウス
 ・ショートステイホーム ・グループホーム

第2サンライフ江南

・特別養護老人ホーム ・認可外保育所
 第2ジョイフル江南
 ・特別養護老人ホーム ・ショートステイホーム
 ・デイサービスセンター

ジョイフルむつみ

・養護老人ホーム ・生活支援通所事業
 ・生活支援短期宿泊事業

ジョイフル布袋

・デイサービスセンター ・グループホーム

サンサン リゾート太古の湯

・大型デイサービスセンター
 ・サンサン サロン 柏森
 ・デイサービスセンター



厚生労働省「認知症施策5カ年計画(オレンジプラン)」の策定 (平成25年度から29年度までの計画)

1. 標準的な認知症ケアパスの作成・普及
2. 早期診断・早期発見
3. 地域での生活を支える医療サービスの構築
4. 地域での生活を支える介護サービスの構築
5. 地域での日常生活・家族支援の強化

○認知症の人やその家族等に対する支援

- ・平成24年度 調査・研究を実施
- ・平成25年以降

「認知症カフェ」(認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場)の普及などにより、認知症の人やその家族等に対する支援を推進

6. 若年性認知症施策の強化
7. 医療・介護サービスを担う人材の育成



認知症カフェに取り組んだ背景

- ・85歳以上の約4人に1人は認知症といわれている
- ・超高齢社会のわが国では、地域に認知症の独居高齢者、認知症の方を介護されているご家族などが身近に生活している
- ・「認知症」という言葉を知っていても、実状が分からないこともある
- ・介護者の中には一人で悩み、疲弊されている方もいる
- ・認知症の方を残して、介護者は外出ができない
- ・今後、一人暮らしの高齢者を地域で支えることが必要になる
- ・社会福祉法人として「地域貢献活動」を検討



認知症カフェ「さんもくカフェ」の歩み

- | | |
|----------|---|
| 平成25年12月 | 認知症カフェについて、江南エリア内の職員と意見交換を行う
このとき担当職員が決定
<small>(介護支援センター所長、ボランティアコーディネーター、デイサービス相談員)</small> |
| 平成26年1月 | 市内の関係機関(行政・社協・地域包括など)へ呼びかけを行い、
認知症カフェの立ち上げについて説明し、認知症カフェに期待することやご意見を伺う |
| 平成26年1月 | 認知症カフェ担当職員(1名)が東京で開催された認知症カフェ
フォーラムへ参加し、認知症カフェについて学ぶ |
| 平成26年2月 | 地域の喫茶店を借り、江南エリアの地域貢献活動として認知症
カフェ「さんもくカフェ」をオープン(第3木曜日14:00～ 参加費¥100) |
| 平成26年4月 | 認知症カフェ担当職員(2名)が一宮市で開催された「ケアラズ
カフェ」を視察 |
| 平成26年10月 | 市内の就労支援施設が運営する甘味処へ場所を変更
場所変更に伴い、開催日を第3水曜日
14:00～へ変更 |
| 平成27年2月 | リハビリ統括責任者による1周年記念講座を開催 |
| 平成27年4月～ | さんもくカフェの内容をリニューアル
「イベント＆茶話会」形式を取り入れる |

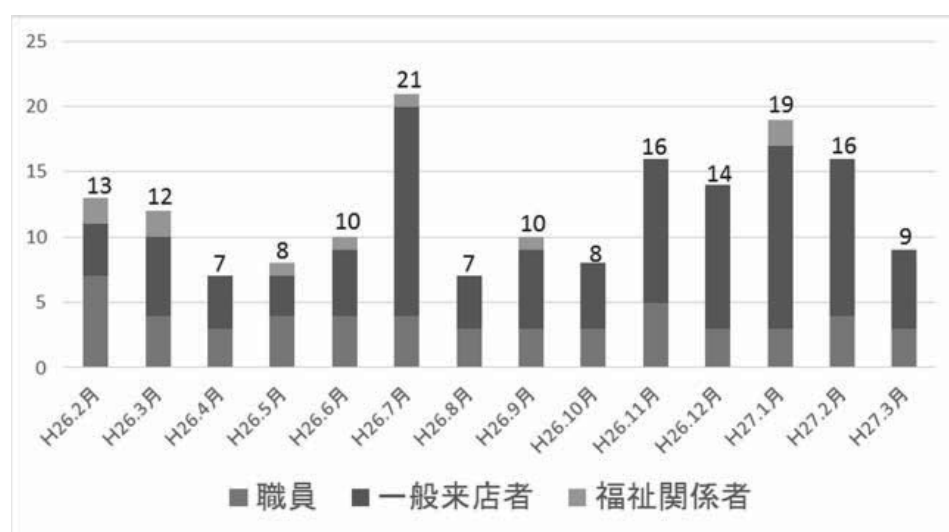


来店者の種別・人数・割合 (H26.2～H27.3)

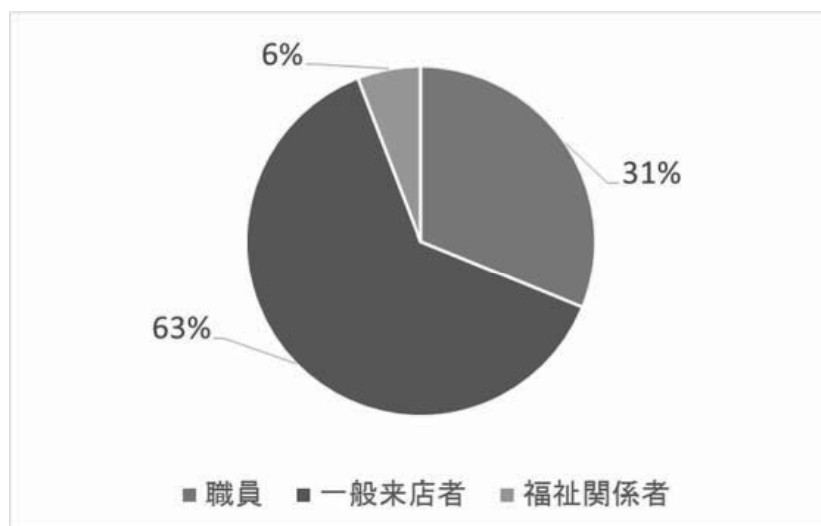
開催月	職員	一般来店者	福祉関係者	合計	職員	一般来店者	福祉関係者	合計
H26.2月	7	4	2	13	54%	31%	15%	100%
H26.3月	4	6	2	12	33%	50%	17%	100%
H26.4月	3	4	0	7	43%	57%	0%	100%
H26.5月	4	3	1	8	50%	38%	13%	100%
H26.6月	4	5	1	10	40%	50%	10%	100%
H26.7月	4	16	1	21	19%	76%	5%	100%
H26.8月	3	4	0	7	43%	57%	0%	100%
H26.9月	3	6	1	10	30%	60%	10%	100%
H26.10月	3	5	0	8	38%	63%	0%	100%
H26.11月	5	11	0	16	31%	69%	0%	100%
H26.12月	3	11	0	14	21%	79%	0%	100%
H27.1月	3	14	2	19	16%	74%	11%	100%
H27.2月	4	12	0	16	25%	75%	0%	100%
H27.3月	3	6	0	9	33%	67%	0%	100%



来店者数の推移 (H26.2～H27.3)



割合(H26.2月～H27.3月累計)



特に来店者が多かった内容

- ・平成26年7月 認知症に関する講座 一般参加者・福祉関係者 17名
「もし家族が認知症になったら...」
講師: 特別養護老人ホーム 施設長
介護支援センター 所長
- ・平成27年1月 座談会&相談日 一般参加者・福祉関係者 16名
「色遊び交流会と認知症予防」
- ・平成27年2月 1周年記念講座 一般参加者 12名
「身体を使って認知症を予防しよう」
講師: 介護老人保健施設 リハビリ統括責任者



リニューアル後のスケジュール

27年度 さんもくカフェのご案内

認知症の方、介護されているご家族、介護経験のある方、福祉関係のお仕事をされている方、認知症に関する勉強がしたい！認知症の手帳がほしい！認知症に関心のある方であれば、どなたでも参加できます！

★日程 毎月第3水曜日 14:00～16:00
さんもくカフェは15:30開始いたします。

★場所 くろみのお店 0587-57-2006
(江上市村大野町(雑居5))

★参加費 ￥100
※参加により、内容が変更になる場合がございます。

日程	曜日	予定している内容
4月15日	水	介護保険法の改正について・施設の紹介
5月20日	水	お楽しみリフレッシュの日(フェスレット作り)
6月17日	水	憩いの時間 ～お茶を飲みながら～
7月15日	水	認知症に関する講座 認知症サポーター養成講座を行います！
8月19日	水	【7/1～申込み開始】絵手紙交流の日
9月12日	土	出張！さんもくカフェ ～おしゃべりサロン～ ※9月のみ、土曜日開催です。 場所は要予約のイベント会場(アオハルホール)です。
10月14日(水)	へ変更です！	色遊び交流＆認知症予防レクレーション
11月18日	水	【10/1～申込み開始】シニアメイクセラピー
12月16日	水	【11/1～申込み開始】認知症予防体操(リハビリ職員)
平成28年1月20日	水	お正月イベント
2月17日	水	2周年記念講座
3月16日	水	【2/1～申込み開始】認知症予防体操(リハビリ職員)

認知症に関するお問い合わせ「Q&A-CY7年」

★お問い合わせ・申込み先
江上市村町第五十期とろみ会
特別支援課人あーんじゅいふん江東
0587-57-3301(担当:)

主催 社会福祉法人 サンライフ 江東区 江東区 江東区

リニューアルに至った経緯

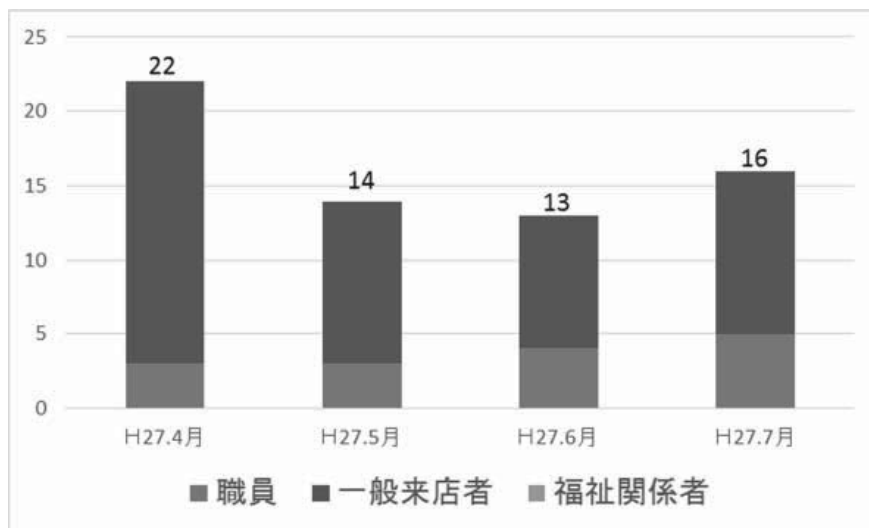
- ①介護者の方が「相談する」「悩みを話す」こと以外にも、介護から離れて「リフレッシュ」できる機会にしてもらいたい、来店者の誰もが楽しめる内容を取り入れたいと考えた
- ②毎回の内容が決まっていなかった
- ③半年ほど経過した時、来店して下さった福祉関係者やボランティアの方に現状の意見を聞き、ニーズを集めた
- ④「年間スケジュールが知りたい」という要望があった
- ⑤具体的な内容が決まっていれば、来店しやすくなるのではないかと考えた
- ⑥さんもくカフェの認知度が低かった

以上のことから、年間スケジュールを作成イベントと茶話会を2本立てとし、開催していくこととした
それまでは職員のみで運営していたが、エリア内施設で活動していただいているボランティアなどにも協力を仰ぐこととした

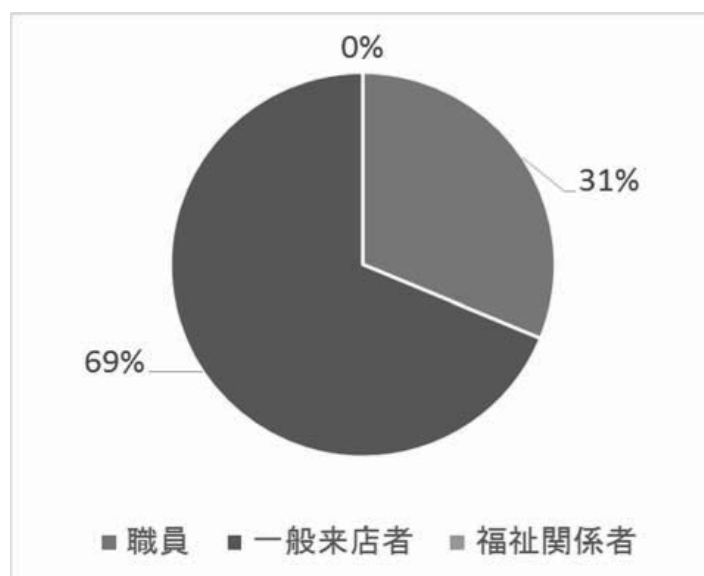
来店者の種別・人数・割合(H27.4～H27.7)

開催月	職員	一般来店者	福祉関係者	合計	職員	一般来店者	福祉関係者	合計
H27.4月	3	19	0	22	14%	86%	0%	100%
H27.5月	3	11	0	14	21%	79%	0%	100%
H27.6月	4	9	0	13	31%	69%	0%	100%
H27.7月	5	11	0	16	31%	69%	0%	100%

来店者の推移 (H27.4月～H27.7月累計)



来店者の割合 (H27.4月～H27.7月累計)



リニューアル前後の比較

リニューアル前

H26.2～H27.3	職員	一般来店者	福祉関係者	合計
平均	3.8名	7.6名	0.7名	12.1名

リニューアル後

H27.4～H27.7	職員	一般来店者	福祉関係者	合計
平均	3.8名	12.5名	0名	16.3名

平均4.2名増加した



新たな支援への繋ぎ

対象者

リピーターとして来店されている介護者と認知症ご本人（以下ご本人）

- ・交流の際、介護者から「このカフェ以外にも一緒に出かけられるところはどこかないかしら...」との声を聞いた
- ・帰り際、介護者から「何かお手伝いができることがあれば言ってね」と声をいただいた
- ・エリア内の施設から「繕い等を手伝ってくれるボランティアさんがいたら紹介して欲しい」との相談があった

→ご本人と介護者を一緒に「ボランティア活動」へ繋げることはできないか



ボランティア活動の調整～現在

- ①該当施設の施設長と意見交換
 - ・相談内容、状況を伝える
 - ・ボランティアとして依頼したい内容を確認する
 - ②該当施設の施設長、介護長が同席し、介護者、ご本人と面談
 - ・施設見学後、ボランティアの活動、活動時間等の打ち合わせを行い、初回活動日を決定
 - ③ボランティア活動の受け入れ
 - ・月に1～2回のペースで活動
 - ・介護者とともに繕いボランティアを行っている
(ご本人は裁縫が得意であったと伺う)
 - ・該当施設の職員はボランティア活動がスムーズに行われるよう、裁縫部屋の確保や道具の準備などの支援をしている
- ご本人の器用さに職員が驚かされた
縫製がきれいでスピーディー、職員の負担軽減にも繋がった
介護者からは「会話を楽しむ時間が増えた」との声を聞いた



認知症カフェに取り組み始めてから、 現在みられている効果

- ・ご本人と介護者が気軽に足が運べる場所となっている
- ・介護経験者がこれまでの経験を話されることで、現介護者の介護のヒントになっているのではないかと
- ・年間スケジュールが決まったため、内容が分かりやすくなった
- ・相談場所や介護者の集まり等の情報を伝える場所となっている
- ・リピーターの方も増え、顔なじみの方に会える場所として利用していただいている
- ・ボランティアという新たな支援に繋ぐことができた
- ・専門職も来店者をサポートしながらも交流することで、来店者のニーズ把握に努めることができている



今後の課題

少しずつ、さんもくカフェの取り組みが知られるようになったが、外部福祉関係者の参加率が低いため、法人関係者以外へはまだ行き届いていないと感じている
情報発信のできる場所を上手に活用しながら、市内へ裾野を広げていきたい

来店者のニーズをカフェの内容に反映できるよう担当職員間での意見交換を継続していきたい



ご清聴ありがとうございました

